

VERITAS vos liberabit



鹿児島純心女子
大学附属図書館報
第4号(No.4)
編集：図書館運営委員会
発行日：2015.3.16

特集 出会いと発見

図書館報名「VERITAS vos liberabit」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

contents

巻頭言	1
館長 三間 晶生	
Book Review	2
久木田 英史	
栗原 真孝	
根建 洋子	
(こと文2) 丸鶴麻早美	
(こと文3) 榎本美由紀	
(看護1) 牛堀 佳苗	
(健栄3) 谷 若奈	
図書館とわたし	6
尾曲 巧	
USER'S voice	
大学院	
指定図書の紹介	7
Forum	
図書館の七不思議	
お知らせ	8
編集後記	

■巻頭言

図書館長 三間 晶生

予想もしなかった何かよいことが起きるといふのを「ひよんなこと」といふことがあるが、図書館でもよく体験する。欲しいものを書架に探しに行くのではなく、ぶらぶらと書架を見て回り、目を引くものがあるれば手にとり読むということをよくしている。本のタイトルなのか、装丁なのか、その時に無意識に求めているものなのか、何がそうさせるのか分からないが、読んでくれとアピールしているような本を手にとっている。

最近では、雑誌の書評記事「マルコ・ポーロはアメリカを発見したのか」(*Smithsonian*, Oct. 2014)というのが強烈に呼びかけてきた。そもそもマルコ・ポーロ自身が謎だらけだ。17歳のときに中国から帰ってきていた父ニコロと叔父マフェオに付いて、3年ほどかけて北京まで行き、そこでフビライ・ハン の腹心として17年間活動し、また3年かけてヴェニスに帰還。折しもヴェニスとジェノバが交戦中で、従軍した海戦で負け捕らえられ牢獄へ。そこで自分の旅を語っていると「大ボラ吹き」(Il Milione)と言われながらも有名となり、ある流行作家がその「あり得ない」物語を文字にしたのが『東方見聞録』の原型。そもそもマルコは中国まで行ったのか。ローマ教会やヨーロッパの君主の送った使者あるいは交易で訪れたことのある商人たちの話を語っただけなのか。はるばる遠い外国から来た男がフビライ・ハンのもとで元朝の国中を密使として自由に活動などできたのか。その当時の「本」は印刷ではなく、1つ1つ写字生が手で写していて、また意図的に手が加えられた場合もあり、いくつかの形で伝わっていて、最初の『東方見聞録』がどういふものであったのか分かっていない(これもまたひよんなことである方からいただいた現存する代表的写本23本のマイクロフィルムが手元にある)。

先に述べた書評では、「千のうそ」(Il Milione)にさらに輪をかけた物語の写本研究が取り上げられている。あるイタリア人移民が1887年にアメリカにも

たらした写本だ。マルコ・ポーロが3人の娘に出した手紙に基づいて書かれたもので、娘の署名まであり、その羊皮紙はマルコと同時代のものではないにしろ15世紀ぐらいまでさかのぼり、ある家族で代々受け継がれてきたものだ。当時の人にとって『東方見聞録』は月旅行をしてきたといふものであれば、この写本では火星旅行をしてきたくらい「あり得ない」物語となっている。マルコは元朝の皇后の命でサハリン島の王女に贈り物を届けに送られた際、嵐に会いカムチャツカ半島の北まで流され、そこで出会ったシリア人商人からその東にある「アザラシの住む半島」のことを聞き、北アメリカ西海岸のシアトル辺りまで旅したといふのだ。

『東方見聞録』を携えて旅に出たコロンブスより200年も前にアメリカにたどりついたことになる。記された地名はかなり正確で、羊皮紙に載った10枚の地図も、北極の地磁気の磁石への影響を考慮すれば、現在の日本、サハリン、カムチャツカ、アラスカ、アメリカ西海岸に殆ど近い形や位置関係になっている。果たしてこの写本は本物なのか。もし本物ならば、マルコ・ポーロは本当にアメリカまで行ったのか。それとも、交易のためアジアから渡った商人たちから聞いた話なのか。『東方見聞録』ではアメリカについて一言も触れられていないが、「自分の見聞きしたことの半分も語っていない」とマルコ・ポーロが言っているのも事実だ。このひと月前の同誌には、アメリカのワシントン州で見つかった頭骨は縄文人が渡来していた証拠だ(“The 90,000-Year-Old Man Speaks”)というもあつた。この記事との出会いもまた偶然なのか。

このように図書館は次々と面白い発見や出会いの機会を与えてくれ感謝しているといっていたら、今度は『ローマ法王に米を食べさせた男：過疎の村を救ったスーパー公務員は何をしたか?』と『限界集落株式会社』というのが“読んで読んで“コールをしてきた。



Book Review

おすすめの本を紹介していただきました



『数学読本』
(全6巻)

松坂和夫著
岩波書店

高の知恵を集め

『原論』はその後、論理的思考のあるべき姿として、数学の枠を超え、学問を志す人々に仰がれてきました。ですからキリスト教という宗教とならび、西洋の文化を理解する鍵の一つが数学にあると言っても、決して言い過ぎではないのです。(そういえば純心学園の創始者、江角先生も、もともと数学がご専門だったとお聞きしたことがあります。)

「点と点を結びと直線」... そんな当たり前のような事実を我慢強く重ねていきます。楽とはいえない、どこにたどり着くかわからないその道を、それでも懸命に進んでいくと、いつか私たちが感覚では捉えることの出来なかった、思いがけない世界が開けています。例えば直角三角形の三辺の長さ a, b, c に関する「ピタゴラス(三平方)の定理」、皆さんもご存知ですね。どんな直角三角形でも $a^2 + b^2 = c^2$ が成り立つなんて、何という不思議でしょう。そんなこの世ならぬ美と調和に心奪われた人々が、その後二千数百年にわたって、数学の歴史を織り上げてきたのです。

今回ご紹介する松坂和夫先生の『数学読本』は、中学校程度から出発して現代数学の一手手前に至るまで私たちを導いてくれます。全部で6冊、1400ページに迫る分厚さなのは、松坂先生が読者の理解を親切に確かめながら、どこまでも緻密に、丁寧に、ゆったりと歩みを進めているからです。松坂先生は社会科学系の大学で数学の教鞭を執られていたようで、数学の専門家でない人にも数学を理解させる、類まれな技をお持ちの方だったのでしょう。『数学読本』の「まえがき」には「私はこの講義が年少の読者に読まれる

『聖書』に次いで、歴史上多くの人に読まれたとされる書物、皆さんはご存知ですか。それはユークリッドの『原論』。紀元前3世紀当時、古代地中海世界の最

た、数学の本であることを希望します。しかしまた、大学生や社会人、ことに学校の先生、数学に興味を持つ父母、さらに一般に教育に関心を寄せられる方々に読まれることを期待しています。」とありますが、『数学読本』に限らず、松坂先生の書かれた数学書の随所に見られる、学ぶ人への細やかな配慮は、実際、数学ではなく語学教育を職業とする私にとっても、憧れの念と共に、手本にせずにはいられないものです。

『数学読本』を読むと、松坂先生が文化としての数学ということに強く意識されていたことを感じずにはいられません。この本を手に取り、数とは何か、改めて考え始めたあなたは、第1巻のほとんど冒頭から、素数が無限に存在することを示すユークリッドの鮮やかな論理に、目を奪われるに違いありません。そして(おそらく相当な月日の後)第6巻にたどり着き、現代数学の基礎、集合論の創始者カントールの「数学の本質はその自由性にある。」という言葉に込められた深い意味に思いを致すとき、あなたは何世代にもわたる知性が幾多の試練を超えて遺してくれた、長い、輝かしい軌跡を、あなた自身の心にしっかりと刻んできたことになるのです。そして数学の言葉という翼を得たあなたの想像力は、21世紀という今、お望みとあらば、素粒子から宇宙の果てまで、止まるところを知らず、翔け巡ることもできるのです。

受験勉強のせいで数学嫌いになった方も多いかもかもしれませんね。そんな方にこそ、またもちろん、数学好きでもっと深く学びたい方にも、優しく、温かい言葉で、緻密な論理の世界の美しさとは何かを教えてくれる松坂先生の『数学読本』を、ぜひお勧めしたいと思います。私にとっても、何度読み返しても、数学愛好者として、また教えることを仕事とする人間として、学ぶことの尽きない本です。多分、すぐには読み通せないでしょう。その分、いつまでも信頼できる相談相手になってくれる、素晴らしい本です。人間の知性の栄光へと向かって、あなたも毎日少しずつページをめくってみませんか。

ことばと文化学科 久木田 英史

ことばと文化学科 久木田 英史

昨今、子どもにかかわる社会問題はたくさんあり、中でも「貧困」は深刻な問題である。ここでの「貧困」とは家庭の所得が標準の半分未満であることを指し、懸念されていることは経済的理由で子どもにとって当然の生活が困難になることである。2012年のデータでは日本の子ども(18歳未満)の貧困率は16.3%、6人に1人が貧困状態にあり、先進国の中でも深刻な状況にある。

こうした中で『チャイルド・プア 社会を蝕む子どもの貧困』はいくつかの事例をもとに、子どもの貧困の実態に迫っている。同書では、貧困問題に取り組むNPOの活動に続いて、2年間の車上生活を強いられた中学生や10代のときにホームレスだった25歳の青年など、厳しい貧困の現実が報告されている。その一方で、学校・家庭・地域による多層的な支援を受けることで、両親離婚後の経済的困窮の影響を乗り越えつつある女子高校生が紹介されている。この女性は家族の問題や不登校などの向き合ってきた現実を次のように振り返る。「ほかの子よりもいろいろ考えたし、



『チャイルド・プア：
社会を蝕む子どもの
貧困』

新井直之著
TOブックス

いろいろ辛い経験したなって思いますけど、そういうのがあったから出会えた人もたくさんいるし、普通に生活していたら出会えなかった人ばかりで、自分がこうやってつらい思いしてきたのも、無駄じゃなかったなって思います」(226頁)。女性は自身の経験を肯定的に捉えられるようになり、その後は将来の目標を設定し、大学進学を果たした。こうした貧困問題に向き合っている当事者や実践家が紹介されている同書を読むことで、子どもと家庭の「努力」には限界があり、社会の「支援」が求められていることを理解することができ

る。日本政府は2014年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」を策定した。この中には「子供たちは国の一番の宝」と明記されている。「宝」としての子どもの成長をどのように支えていくのか。日本社会で生活する私たち全員に問われている。

こども学科 栗原真孝

「食べる-生きる力を支える」というシリーズの第2巻にあたるこの本には「いのちと食」というタイトルがつけられていて、食べることの意味が、料理研究家の辰巳芳子氏、生物学者の福岡伸一氏、小説家の玄侑宗久氏との対談を中心にさまざまな角度から探られている。

“いのちを支えるスープ”でも知られる辰巳芳子氏は、「『食べる』という日常的な小さな窓から覗くと、『食』の領域がずーっと見えてくる。その領域は、台所から宇宙まで続くものです。」と語っている。「食べるということは、他のいのちをいただくこと」という言葉と重ねると、私たちのいのちは大きな空間の広がり長い時間的つながりの中にあるのだということに改めて思い至らされる。

福岡伸一氏は、その著書「生物と無生物のあいだ」などで、細胞の破壊と生成が絶え間なく行われることにより熱力学の基本であるエントロピー増大の法則に抗って生命が個体として維持される、という「動的平衡」の考え方を紹介しているが、この対談の中でも食べることの生物学的意味と重要性について興味深く



語っている。

僧侶でもある玄侑宗久氏との対談は、「健康とは」、

『いのちと食』
大久保満男, 大島伸一編
中央公論新社

図書館所在
1F和書 497 0

「天年を終える-恬淡無為」、「死-どの辺りが自然なのか」など奥深い内容にも広がる。東日本大震災復興構想会議の委員も務める玄侑氏は「自然というものを想定内のものにしていこうというのが、技術系の罪深さというか。それが一般の消費者にもあると思うの

です。」と述べ、今の日本人はそれを食の世界にも求めていると警鐘を鳴らしている。

序章の中で紹介されている哲学者鷲田清一氏の「動物として栄養を摂るために食べ続けるということは生きることの基本である。しかしそれ以上に食べることと味わうことに、自分の生きることの尊厳とか、生きることの意味がこの行為の中に凝集しているのではないか。」という考え方への共鳴がこの本の基盤にあるように感じられた。

健康栄養学科 根建洋子

学生の皆さんによるBook Review



『小さないのちの歌： ダウン症とたかった少年』

高橋 奏子著
ポプラ社

皆さんは、障がい者の子に対してどのような事を思いますか。私がこの本に出会ったのは小学校5年生の時です。その時の私のクラスには、耳が不自由な子がいました。小学生であった私は、その子のような「人と少し違う子」に対してどのように接していいかわからず、無意識のうちに苦手意識を持っていました。そんな時に、教師をしている父の友人からこの本を薦められたのです。一人のダウン症の少年の9年という短い人生を記録したこの本は、私の中に大きな衝撃を与えました。ダウン症とは、染色体の異状によって起こるもので、みな特有の顔立ちをしており、個人差はあるものの様々な身体的ハンディキャップを持っています。しかし、ダウン症児は別名「エンジェルベビー」と呼ばれることもあり、明るく優しい性格で周りを和ませる力も持っているのです。そんな運命を背負ったダウン症の少年修ちゃんは、実に遅く、元気で、色んな人達から愛されて育ちます。普通の子と同じように育てたいと、全力で修ちゃんと向き合い、世の中と向き合っていくお母さん、それを支える弟思いのお兄ちゃんとお父さん。思わずくすくす笑ってしまうような奇想天外なエピソードや修ちゃん家族の奮闘、そして最後には衝撃の結末が待っています。この本を読み終わった時、私は涙が止まりませんでした。命とは何なのか、障がいとは何なのかを考えさせられる作品であり、それと同時に、修ちゃんの9年間の人生に、修ちゃんの生きる姿に、ただただ胸が締め付けられます。たった一度読むだけでも、自分自身の人生の見方や自分とは少し違う子たちへの考え方が大きく変わるはず。この本を通して、ぜひ一人のダウン症の少年の人生に寄り添ってみて下さい。

ことばと文化学科2年 丸鶴麻早美



『教師花伝書』 佐藤学著 小学館

図書館所在
1F和書 374.3 SA

佐藤学氏の『教師花伝書』には教師に必要な教育技術について多く書かれている。また、ただ教育技術について書いてあるのではなく、佐藤学氏が実際に見た授業や周囲の教師の修養の姿など詳しく書かれているのだ。教師にとって修養は欠かすことのできないものである。「教師は「教える専門家」である以上に、「学びの専門家」でなければならない。」(177頁)と佐藤学氏は述べている。ここで修養という言葉の意味理解を深めることができる。佐藤学氏はポジショニングを「居方」とし、どうあるべきか、またどういった「居方」が教室でよく見られるのかといったことを述べている。教師にとって「居方」とは非常に重要な教育技術である。教師の「居方」によって教室の印象は全く異なるからである。詳しくは『教師花伝書』を読んでいただきたい。この本には、佐藤学氏の考え方の変化など、詳しく書かれてある。はじめから「学びの専門家」を取り上げていたわけでもない。そこにどういった背景があるのか。なぜ佐藤学氏は教師の在り方について考えを変えたのか。それ以前はどういった考えであったのか。読み進めるうちに理解が深まるのである。新任の教師がどういう姿で子どもの前にいるのか、またどこをどう変えたとよりよい関係が子どもと築けるのか『教師花伝書』を読むことで学ぶことができるのだ。佐藤学氏は「「学びの専門家」としての教師は、実践家として本から学ぶ以上に現実から学ばなければならない。」(201頁)と述べている。教師は本から学ぶことも多いが現場にいる教師は目の前の現実から多くの教育技術を学ぶことができる。しかし、現場にいない教師を目指している学生は多くのことを本から学ぶ必要があるのだ。そこで私はこの『教師花伝書』を教師を目指す学生に読んでもらいたいと思う。そして修養とはどうあるべきか、「居方」とは本来どういったものなのかなど多くのことを学んでほしいと思う。

こども学科3年 榎本美由紀



『風が強く吹いている』
三浦しをん著
新潮社
(新潮文庫)

図書館所在
1F文庫 913.6 MI

日本人なら誰もが知っている箱根駅伝。正月を迎えるとメディアはこの話題で盛り上がる。そんな箱根駅伝の舞台裏に、多くの汗、涙、そして絆が存在していることを知っているだろうか。私に、その存在を教えてくれたのは『風が強く吹いている』である。

この作品は、大学の寮で出会った10人の青年たちが様々な壁を乗り越え、箱根駅伝で頂点を目指すという物語だ。ほとんどの者が陸上未経験者という不利な状況にも関わらず、一人一人が試練や葛藤を乗り越え、練習に打ち込む姿に描かれている。私は、その姿に自分の高校時代の部活動が重なり、胸が熱くなった。

この本は私に、何をやるにも最大のライバルは自分自身で、挫折するのも、最後まで走り抜くのもどちらも自分次第であるということを知ってくれた。また、何か壁にぶつかった時、彼らのように走り続けたい、もう少しだけ頑張ってみようと、前向きな自分に出会わせてくれた。箱根駅伝の時期になると、思わず手が伸びるこの作品。何度読んでも、彼らのがむしゃらに走りに打ち込む姿に、心打たれる。たとえ目指すものが駅伝でなくても、何かを目指しているのであれば、彼らの走りに対する姿勢に共感できる。更に、好きなことを思いきり出来ることがこんなにも素晴らしいことで、自分を成長させるのだと、ページをめくる度、彼らが語りかけてくるようだ。運動経験者でも、そうでなくても思わず彼らと一緒に駆け出したくなる爽快感溢れるこの作品を、是非読んで頂きたい。

看護学科1年 牛堀 佳苗



『塩の街』
有川浩著
角川書店
(角川文庫)

図書館所在
1F文庫 913.6 A

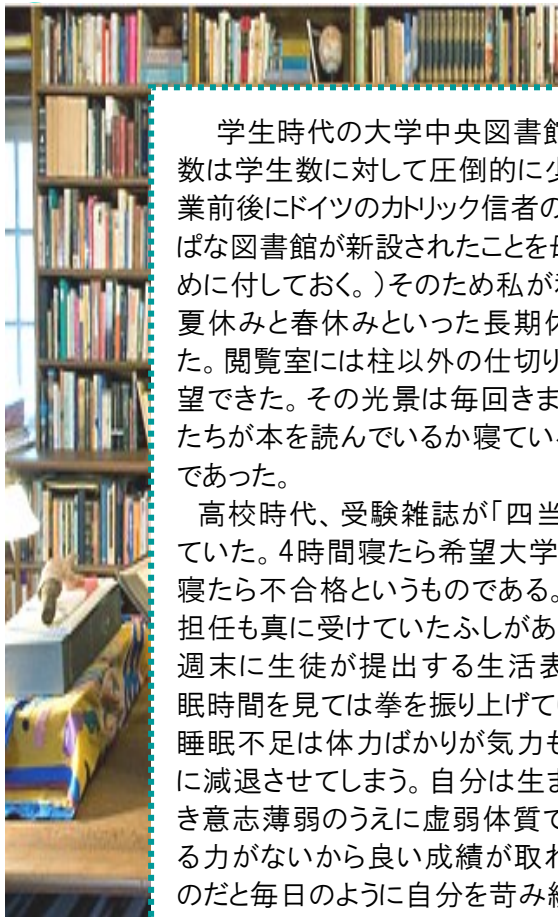
街中に立ち並ぶ塩の柱の正体は数分前まで生きていた人間だった。原因不明の塩害によって人が次々と塩と化す塩害が流行している世界。目に見える程のスピードで理解しがたい異常現象に襲われたとき、人は何を思い、どんな行動をとるのか。塩害で両親を失った主人公の女子高生真奈は、30歳の秋庭という男との新たな生活を始めた。2人は「塩化してしまった人」「塩化しかけている人」達との出会いの中で、人が人を思う力の強さに気付かされながらも、自分達にも共通する、人間の醜さも感じ取るようになる。生活の中で真奈と秋庭は互いを大切に思い始めたが、それは同時に失う痛みを背負わなければならないということの意味していた。「相手が先に塩化してしまったら・・・」その思いが秋庭を突き動かす。「世界とか、救ってみたいくない？」と誘う友人の画策にのった秋庭の結末は・・・？

『塩害』という一見考えられないような設定だが、リアルな人間模様から「無くも無いかな・・・」と読み進めるうちに感じ始めるだろう。社会の異変という観点で見ると、何も塩害に限ったことではなく津波や地震などの自然災害に共通する部分だとも思う。平穏な社会では守られる社会のルールは非常時には全く意味をなさなかつたりする。そうなってからようやく気付くであろう自分にとってかけがえのない宝とは何か。さらにその時に、人間としての理性や誇りを保ちながら尚且つ希望を捨てずに異変と闘っていけるか。

そしてこの本を読んでいても、東日本大震災の復興過程を見てきても感じたのは、人が人を、街を大切に思う気持ちが日本の、世界の底力になるということだった。

スリリングな展開にハラハラドキドキさせられながらも、繊細な心情描写に心打たれるシーンも満載。欲張りでお腹一杯になれる一冊だ。

健康栄養学科3年 谷 若奈



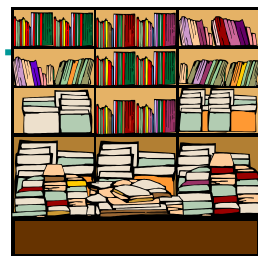
学生時代の大学中央図書館の閲覧室の席数は学生数に対して圧倒的に少なかった。(卒業前後にドイツのカトリック信者の寄付を得てりっぱな図書館が新設されたことを母校の名誉のために付しておく。)そのため私が利用できたのは夏休みと春休みといった長期休暇中が主だった。閲覧室には柱以外の仕切りはなく部屋を一望できた。その光景は毎回きまったように学生たちが本を読んでいるか寝ているかのいずれかであった。

高校時代、受験雑誌が「四当五落」と喧伝していた。4時間寝たら希望大学に合格、5時間寝たら不合格というものである。私の担任も真に受けていたふしがあって、週末に生徒が提出する生活表の睡眠時間を見ては拳を振り上げていた。睡眠不足は体力ばかりが気力も確実に減退させてしまう。自分は生まれつき意志薄弱のうえに虚弱体質で頑張る力がないから良い成績が取れないのだと毎日のように自分を苛み続けた惨めな三年間だった。

「四当五落」なんて科学的根拠のないただの精神論ではなかったのか。近年、睡眠の研究が進み、睡眠は食事と同じように質も量も大事だとメディアで頻繁に

取り上げられている。個人差と年齢差はあるが一般的には7~8時間の睡眠が必要であるとか、また、記憶は睡眠によって整理され長く留まるとも言われている。昼間、図書館で本を読んだり考えたりすることは学生に高い知的集中力を求める。当然、夜8時間寝ていたとしても脳は疲れ休息と整理の時間を必要とするだろう。すると、大学図書館の閲覧室の光景は私が学生時代に慣れ親しんでいたような本を読んでいるか寝ているかのようなものに自然なるのではないだろう。

授業中居眠りしている学生に夜きちんと寝ているかを聞くと、アルバイトからの帰りが遅いとか私の声が子守唄に聞こえてくるとかのんきな返事が返ってくる。大学は知的生活の場である。知的な生活への備えとして先ず大切なことは睡眠の効用について深く認識し実践することだろう。しっかり寝てすっきりした頭で一度真剣に考えてもらいたい。それでも私の説得が及ばないというなら、これならどうだろう。美容の一番の敵は睡眠不足だそう。



(1) 1) 1) 文化学科 尾曲巧

図書館

User's Voice

私は現在、鹿児島純心女子大学大学院にて、臨床心理学についての学びを深めています。大学院に在籍したのちに目指すところは、病院、学校等に代表される施設にて、様々な悩みや問題を抱える方々への支援の実践です。そのためには、様々な角度から、臨床心理学の知見を取り入れる必要があります。その情報を収集するために、私は図書館を利用しています。どの分野でも、実践の前提に知識が必要とされますが、その知識を取り入れる場所として本学の図書館は非常に有用だと思います。本は読み手に、多角的な視点や、新しい知識をいつでも提供してくれます。

また、現代はテレビ、インターネット等のメディア媒体による情報も豊富ですが、本はそれらの情報とは違い、著者の言葉に静かに耳を傾けるための時間を提供してくれます。つまり、本を読むことは、その本、章、節を書く一人の著者の語りにじっと耳をすます時間であるようにも思い

ます。それ自体が、臨床家を志す者として尊い時間です。一方で、ある情報ばかりに僻せぬよう、本を数冊借り、多くの著者の視点に触れ、多面的にそのテーマを理解することを心がけています。

そして、研究論文などを取り寄せる時にも、図書館を利用しています。本や論文にて新しい知見を取り入れることは、既存の課題の解決のみならず、新しい課題を見つけ、その分野を深く理解することに繋がって行きます。自らの疑問から生じる「知りたい」という気持ちが、学びをより充実させていくように思います。このように、1つ1つの知識を丁寧に学んでいくことで、物事をより体系的に理解することができます。そうして積み上げられていった知識は、いつしか自らの身となり骨となっていくのではないかと思います。みなさんもぜひ、自己研鑽の場として、図書館を活用されてはいかがでしょうか。

(大学院 H)

指定図書を紹介



「指定図書」をご存知ですか。本学教員が、講義や演習等の参考文献として指定している図書のことで。当館では「指定図書コーナー」を設けており、教員ごとに、分類番号に関係なく配架しています。授業の予習や試験、レポートの対策に、是非ご活用下さい。

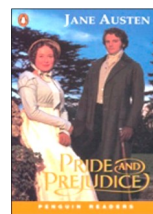


■指定図書を一部ご紹介します■



三間先生指定図書
歴史から読み解く英語の謎/岸田隆之他

ウォルターズ先生指定図書
Pride and Prejudice /Jane Austen



七川先生指定図書
いのちとこころを救う災害看護 /
小原真理子監修



加藤先生指定図書
日本語力をつける文章読本/二通信子他

forum

図書館の七不思議

其の壹

石

図書館には大きな石があります。その存在をご存知ですか。この石はある日突然現れました。これは、黒曜石のような印象で、大きさは約30センチ程で容易に持ち運べるようなものではありません。この石が何故図書館にあるのか、どこからきたのか、そもそもこの石は一体何なのか。長崎県の外海地方で採れる石に似ているという声もありますが定かではありません。仮に長崎から運んできたとしても、目的や理由はわかりません。謎に包まれた石…。そこで、石について考えてみました。

石とは…広辞苑によると、「岩より小さく、砂より大きい鉱物質のかたまり。」であると説明。そのほか、宝石や、ライターの発火合金、碁石、硯、墓石、さらには胆石、結石という記述もありました。考えてみると石には庭に転がっている石から宝石と呼ばれる希少な石まで多くの種類があり、興味深いものです。文明が栄える以前、石を使って火を熾していた事実は、発火合金に石の成分が使われていることから、頷けます。また、胆石や結石という一般的に考えられる石とは違うものも石の項目に挙げられており、石と言っても様々で幅広く、ひとことでは言い表せないもののように思いました。この

ほか「固いもの、無情なもの、融通のきかないものなどを比喩的に表わす語。“石あたま”、“石のような心”」とあり、表現としてに用いられることも確認しました。「石」を使った慣用句も沢山あります。

聖書の中にも「石」が沢山登場します。「家造りの捨てた石が隅の親石となった」(詩編118・22)、家を建てる人が要らないと思って捨てた石が、別の場所で重要な役割を持つ石となった、ということ。また、「罪のない人が、この人に石を投げなさい。」(ヨハネ福音書8章)。このように石は人を傷つける道具にもなってしまいます。

かつて砂浜で拾った石は、荒波に削られ、きれいな三角の形をしています。宝石のような美しく貴重な石ではありませんが、私にとって大切な石です。皆さんも大切な石を持っていますか。石に出会ったら、それは人を傷つけるためではなく、大切な存在となる石にしたいものです。

謎に包まれたこの図書館の石は、今もその片隅で息を潜めています。

興味のある方は、図書館の石を探してみして下さい。



お知らせ

- 学外文献複写申込用紙が変わりました。通し番号を付与していますので、図書館に備え付けの用紙をご利用下さい。申込用紙をコピーして使わないようにお願いします。パソコンからの申込は従来通りです。
- 文献検索ガイダンスは随時受け付けています。個人でもグループでの申込みも可能です。レポートや卒業論文作成に役立ちますので、早めの受講をお勧めします。

環境に配慮しています

図書館では、環境に配慮したアイテムを用意しています。

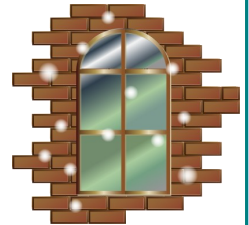
夏は、うちわ



冬は、ひざ掛け



オールシーズン、窓はUVカット



卒業後も利用できます

在学時より利用制限はありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。（*貸出冊数5冊、貸出期間2週間）
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後、図書館へお越しください。
皆様のご利用をお待ちしています。

編集後記

今号の特色は、なんといっても、利用者による原稿のボリュームが大幅に増大したことであろう。どの本も手にとりたくなるのは、僕だけではあるまい。教員の図書紹介は、実は、編集子である僕の楽しみのひとつだ。教壇に立って弁舌をふるう「先生」が、どんな本を面白がっているのか、ふだんどんな本を読んで、どんな思索をめぐらしているのかが窺えて、楽しい。大学の「先生」は、教員であると同時に、研究者である。そんな「先生」が学生に勧める図書を集めているのが、指定図書コーナーだ。指定図書の背表紙を見るだけでも、「先生」の思想や知的関心、物の見方、考え方が自ずと窺える。指定図書の感想を携えて研究室を訪ねてみてはどうだろう。「先生」は狂気して喜ぶに違いない。大学教員の知の世界に触れ、自らの視野を広げ、学問を深めることを願ってやまない。（KH）



鹿児島純心女子大学附属図書館報

VERITAS vos liberabit No.4

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2015年3月16日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: veritas@jundai.k-junshin.ac.jp